

江戸城で政治が行われた

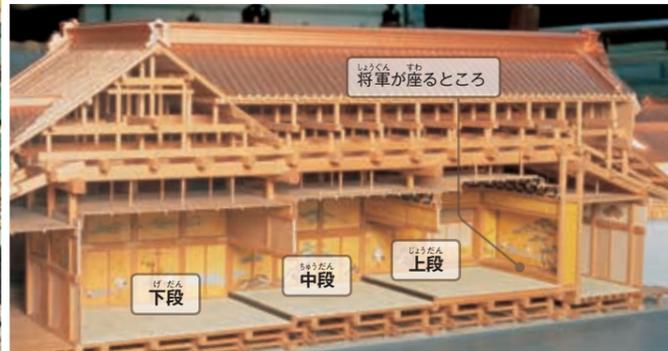
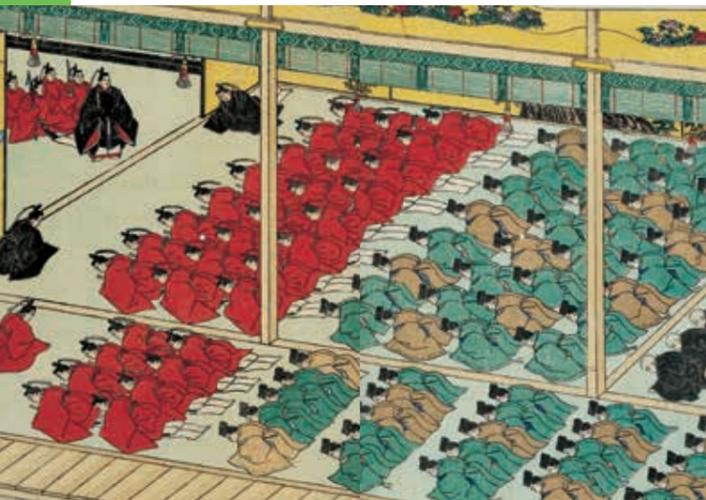
広くてりっぱな江戸城は、徳川家の権力を示す象徴的なものだった。御城は政治を行う場所であり、将軍が生活する場所でもあった。城内で、将軍を中心とした国を治めるしくみをつくり、幕府の力を強めていった。

お城のなかはどうなってるのかな？



<大名たちが大広間に集められた>

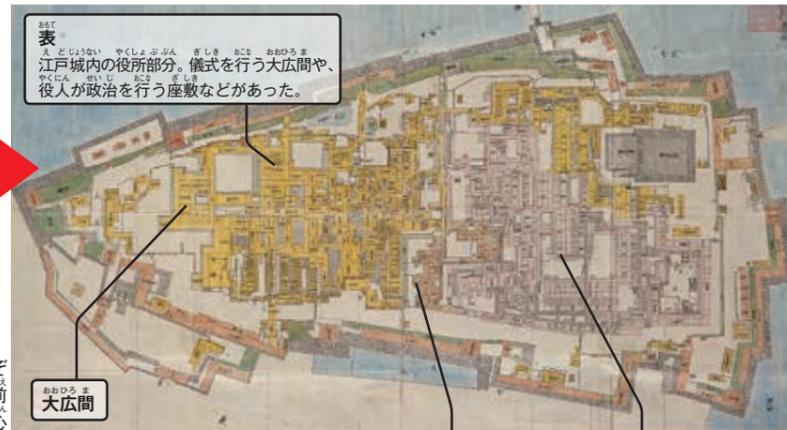
江戸城の本丸にあった大広間は、大名や朝廷(天皇や貴族)の使者が将軍に会うための重要な場所で、儀式や公式行事が行われた。大広間は「千畳敷」ともよばれ、全体で500畳にもおよぶ、とても広大な部屋だった。上・中・下段の間、二の間、三の間、四の間があり、地位によって座る場所が決められていた。



左の絵は、正月に将軍と大名たちが対面したところ。将軍が登場したときには、いっせいにひれふし、将軍のすげを見ることも声を出すこともできなかった。

幕府政治の中心、江戸城本丸

江戸城には、本丸、二の丸、三の丸、西の丸などがあり、このうちの本丸が、将軍が政治を行い、生活をする場所だった。本丸はさらに、「表」、「中奥」、「大奥」に分かれていた。本丸だけでも約13万㎡(約4万坪)で、東京ドーム3個分に近い広さだった。



江戸城の敷地内のような。二の丸、三の丸、西の丸は、それぞれ将軍を退いたあとの住まい、次の将軍の幼少期の住まい、前の将軍の正室(奥さん)の住まいなどにつかわれた。本丸を中心に掘って囲まれていた。

本丸内部の間取り図



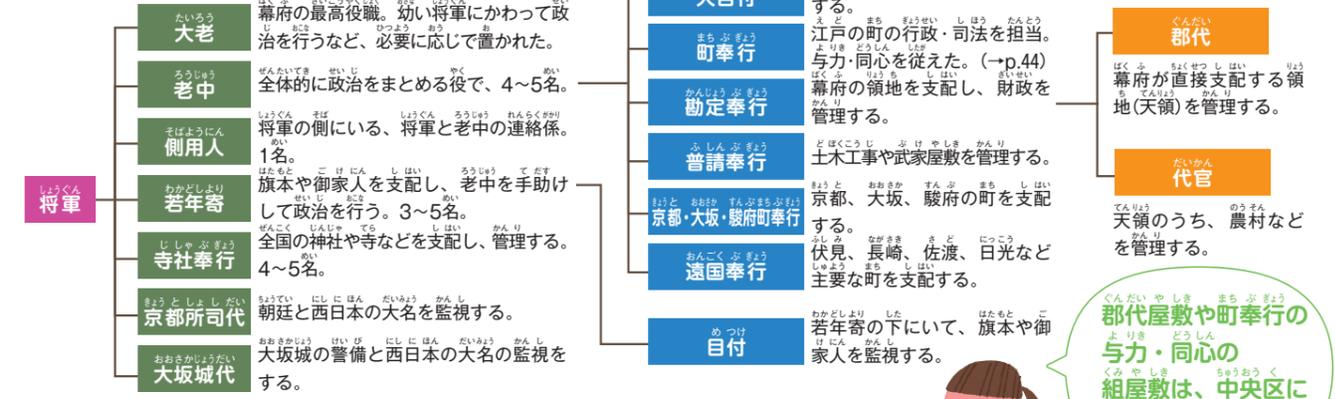
松の廊下
本丸の表にあった、大広間につながる大廊下。L字形で南北に約33m、東西に約21mあった。

大奥では1000人以上の女中が働いていた。将軍と医者以外の男性は大奥への出入りができなかった。

江戸幕府の役人たち

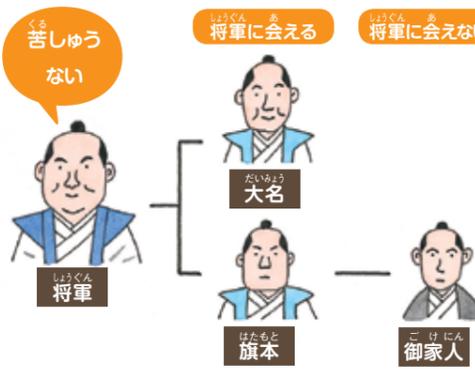
江戸幕府のしくみは、3代将軍徳川家光のころまでに完成した。武士による政治で、将軍を頂点に、全国をしっかりと支配できるように、さまざまな役職を整えた。重要な役職は大名のなかから複数の人数を選び、話し合いによって政治が進められた。

幕府のおもな役職



武士にはいろいろな身分がある

一口に武士といっても、家の格や、領地で米がとれる量(石高)などによって身分が決められた。「大名」とは石高1万石以上の領地をもつ領主のことだ。1万石未満の将軍直属の家臣のうち、将軍に会う資格をもつ者は「旗本」、資格がない者は「御家人」とよばれた。



松の廊下で事件があった

赤穂(現・兵庫県)の大名の浅野内匠頭は、以前からわだかまりのあった旗本の吉良上野介を松の廊下で切りつけたことで切腹を命じられ、お家取りつぶしになった。このことを不服とした家来の赤穂浪士たちは、苦勞の末に主君のかたきをうった。この事件は「忠臣蔵」という物語になり、有名な時代劇になっている。



大名が武家諸法度に違反すると、領地や身分を取り上げる「お家取りつぶし」になるなど、厳しく処分された。

大名は江戸に「出張」した

幕府は、全国の名を支配するために「武家諸法度」という制度をつくった。そのなかの1つ、「参勤交代」は、半年または1交代で大名を国元(自分の領地)から出張させて江戸に住まわせる制度だった。奥さんはずっと江戸に住まなければならなかった。こうすることで、将軍と大名が主人と家来の関係にあることを意識させると共に、旅費や江戸での生活にお金を使わせ大名の財力を弱らせた。



参勤交代の大名行列
国元と江戸を行き来するときに、立派な行列をする大名も多く、たくさんの費用がかかった。

規則正しい将軍の1日

江戸城で暮らしていた将軍は、毎日、なん時になにをするかが決められていて、同じようなスケジュールで生活していた。